



林寺小学校 概要



林寺
小学校
広域図

所在地

大阪市生野区林寺2-14-3

土地所有者

大阪市

敷地面積／延べ面積

6,254.91㎡／4,282.09㎡

防火地域

準防火地域

用途地域

第1種住居地域

容積率

300%

建ぺい率

80%



アクセス

 JR大阪環状線 寺田町駅 東へ約1km

 JR関西本線（大和路線）東部市場前駅
北西へ約950m

 近鉄南大阪線 河堀口駅 北東へ約1.2km

 大阪シティバス 林寺一丁目バス停 東へ約400m



利用区画を示した平面図

活用可能スペース

- ・校舎（屋上、プールを含む。ただし、備蓄倉庫、講堂内倉庫及び体育倉庫の一部は除く）
- ・その他の敷地（外構部分等）

用途指定スペース

- ・備蓄倉庫（校舎D棟1階部分）
- ・講堂内倉庫の一部（講堂棟1階部分）
- ・体育倉庫の一部

条件指定スペース

- ・講堂
- ・多目的室（校舎D棟1階部分）
- ・グラウンド（遊具等含む）

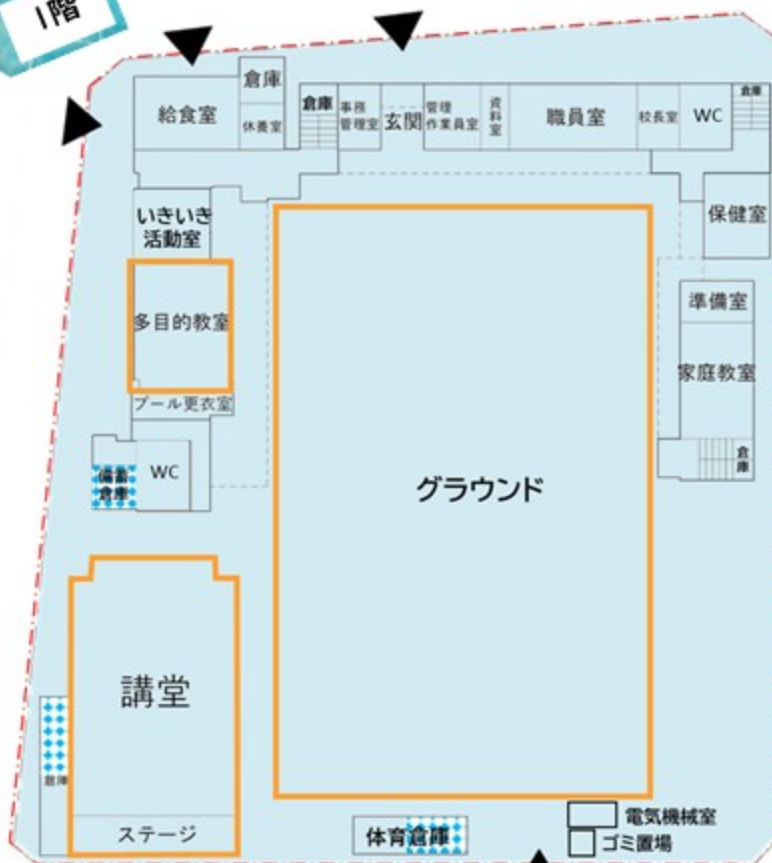
災害時には

「講堂」
「グラウンド」
「多目的室」
「校舎※」

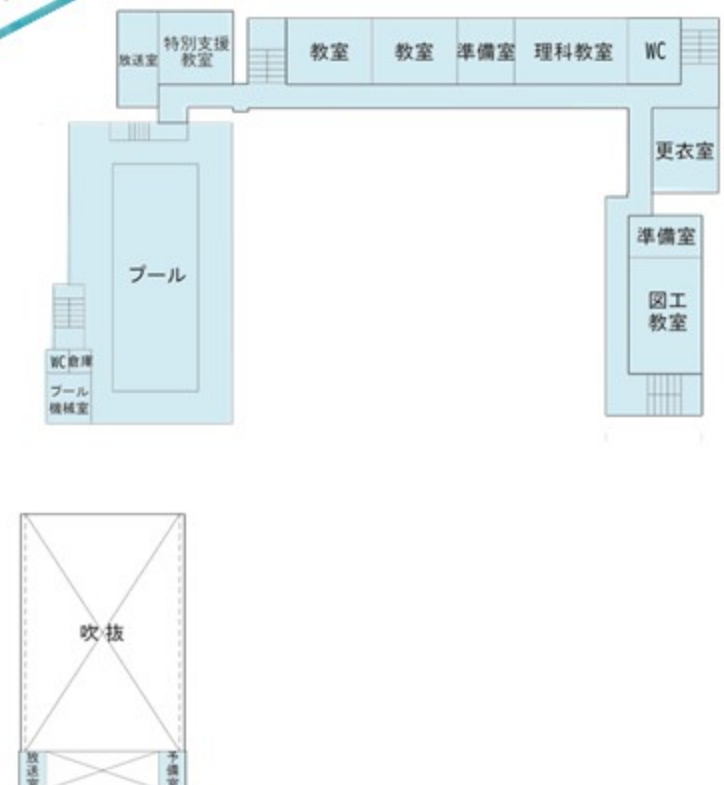
を開放する

※「林寺地区防災計画」における避難所として使用する
教室と同等の教室数以上の教室の開放が必要

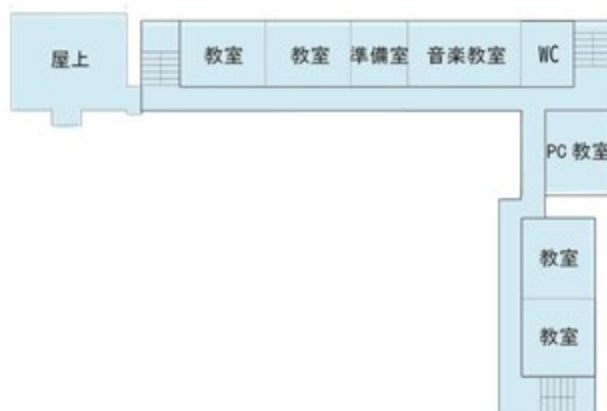
1階



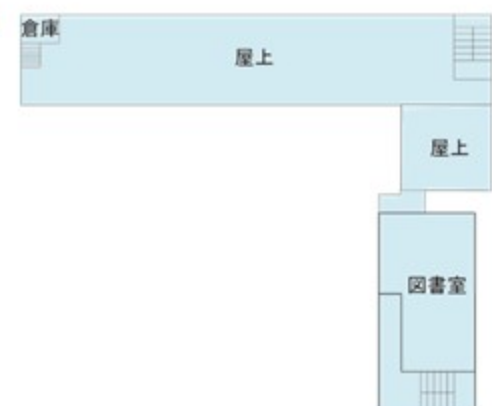
2階



3階



4階



屋上

- 活用可能スペース
- 用途指定スペース
- 条件指定スペース

▲ 出入口

屋上(校舎)

屋上

活用にあたっての考え方とマインド

活用にあたっての基本的な考え方

① 防災拠点

防災拠点としての機能を有することが大前提

② 地域コミュニティ

地域コミュニティ機能の継続

③ パブリックマインド^(※)

パブリックマインドを有する事業者と地域連携・地域貢献

④ 持続可能性

持続可能な跡地運営のスキームの導入

⑤ エリアへの波及力

校舎活用の「周辺エリアへの波及力」の視点



学校跡地を
核とした
まちづくり構想の
「学び」の視点

※パブリックマインド…国や社会の問題を自分自身の問題として考え、
そのために積極的に行動するという公共の精神

活用にあたってのマインド

前提となるもの

- 災害時には避難所として開放するとともに、地域の防災拠点の機能を有するもの
- パブリックマインドを持った活用とし、地域と緊密に連携し、地域貢献に資するための地域コミュニティとしての機能を有するもの
- 基本的に校舎施設全体を一括して運営しつつ、かつ持続可能となるもの

望まれるもの

- 人々に居場所と持ち場を提供できる地域包摂的視点を有するもの
- 周辺エリアの特徴・文化を活かした様々な学びの機会や雇用の場の創出へとつなげ、生野区ならではの教育・仕事・暮らしをまち全体で育てていく拠点となるもの
- 周辺エリアとのつながり・波及と地域活性化が見込めるもの

林寺小学校で特に望まれる要件

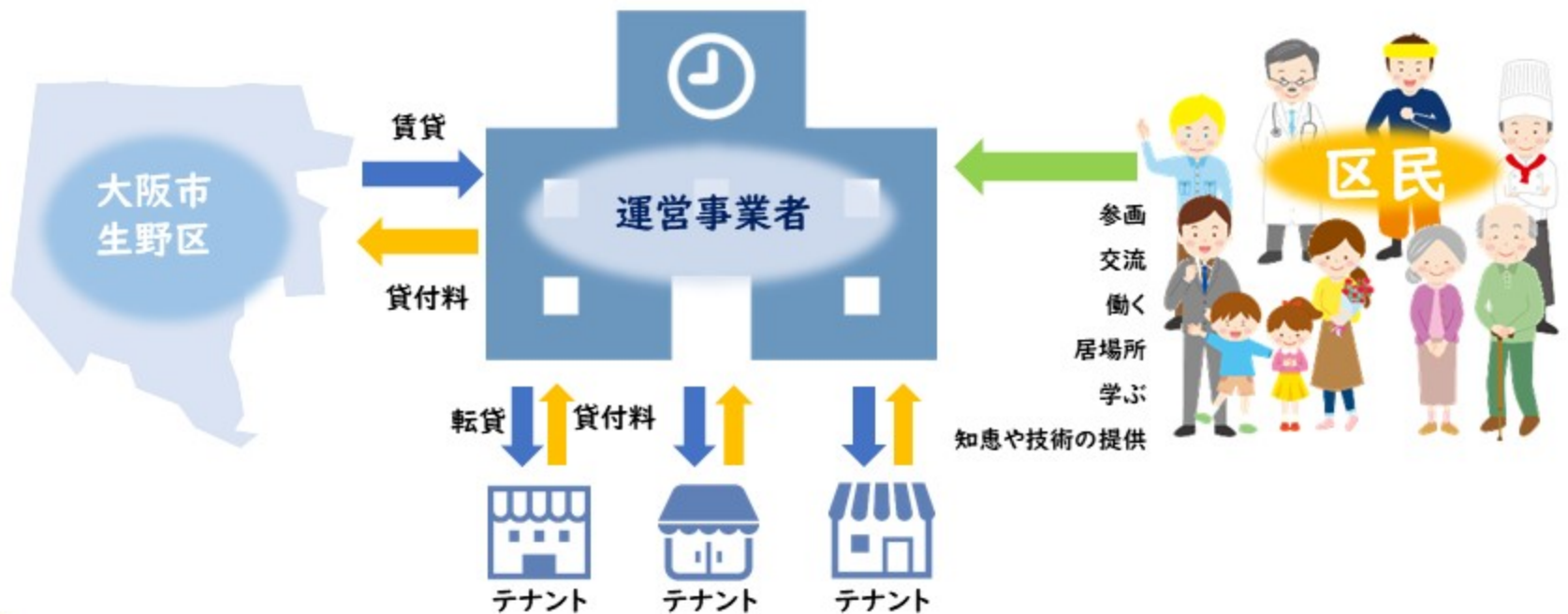
- 地域と共存共栄し地域活性化に寄与する教育機関など様々な学びの場となること

持続可能な運営スキーム

民間のノウハウを活用して、地域および行政との協働により、自律的で持続可能な運営を行います。

ひとつの事業者が区から施設全体を借り上げて運営する形態を基本

小学校全体の企画・投資・マネジメント



貸付方法	借地借家法上の定期建物賃貸借契約(建物)
貸付期間	20年間
貸付料	566,500円/月（消費税及び地方消費税相当額を含む）

主な費用負担

負担者	費用項目
運営事業者	・事業に伴う改修・改装(初期含む)に要する費用
	・施設全体にかかる維持管理費
	・その他事業に伴う維持管理費等
本市	・施設の大規模修繕費用（外壁改修工事、屋上防水改修工事）



防災機能と地域コミュニティ機能



施設の運営にあたり、事業者、地域および行政の三者による協議体を設置し、施設運営全般（防災・地域活動含む）について協議します。



災害時に地域住民が
安全に避難できるスペースに！

「講堂」「グラウンド」
「多目的室」「校舎※」を開放する

※「林寺地区防災計画」における避難所として
使用する教室と同等の教室数以上の教室の開放が必要

地域活動を継続的に

これまでの地域活動についても、
地域ニーズ・意向を踏まえ、林寺
小学校跡地において継続して実施



問合せ先

担当：生野区役所 地域まちづくり課

住所：〒544-8501

大阪府大阪市生野区勝山南3丁目1-19

TEL：06-6715-9017

FAX：06-6717-1163